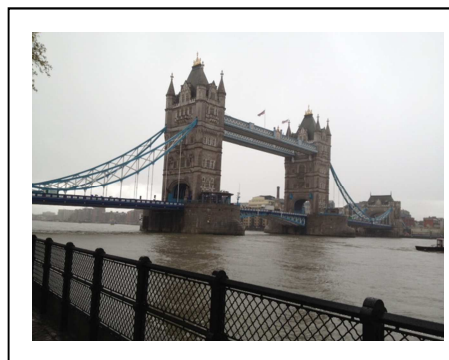


London Book Fair 16 April – 18 April 2012



ロンドンブックフェアに参加してきました。10月のフランクフルトブックフェアから半年後というタイミングもあり、世界の主だった出版社やエージェントが一堂に会して版權の取引が積極的に行われる場です。今回は中国がテーマ国ということもあり、中国市場に関する様々なセミナーやトークイベントが開催され、中国関係者のブースや巨大な広告が目を引きました。また、急速に進むコンテンツのデジタル化にともない世界の出版状況も刻々と変わっています。現地で見聞した最新の状況をレポートします。

(近谷浩二／中原絵美)



ブックフェア会場外観。

フランクフルトブックフェアと異なり
一般人の参加はなし。

中国パビリオン。

中国文学を英語に翻訳できる優秀な
訳者は世界で30人もいないだろう
とのこと。

中国の人気作家 Bi Feiyu が招待され、
会場で人気を博していた。



写真は J.K. Rowling の新作を9月に出版する英国のリトル・ブラウン社（アシェットグループ）のブース。 J.K. Rowling が初めて大人向けに書き下ろした新作は 400 ページを超える。

ちなみに先月ハリーポッターの電子版が発売されたが3日で1億円を超える売り上げを記録。電子書籍につきものの、海賊版防止用 DRM を敢えて使用しなかったことが業界で話題に。今後音楽業界が辿ったように DRM は使用せずより多くの読者にリーチする手法が主流になると言われています。

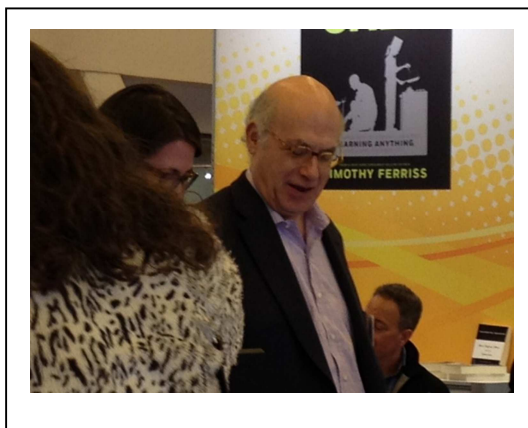


バーズ&ノーブルの Nook がいよいよ UK 市場に進出するという事で Nook の展示があったが関係者に限られていたのか残念ながら中に入ることができなかった。Nook は UK の最大チェーン書店ウォーターストーンとの提携話も。アマゾン Kindle とのシェア争いに今後注目が集まる。

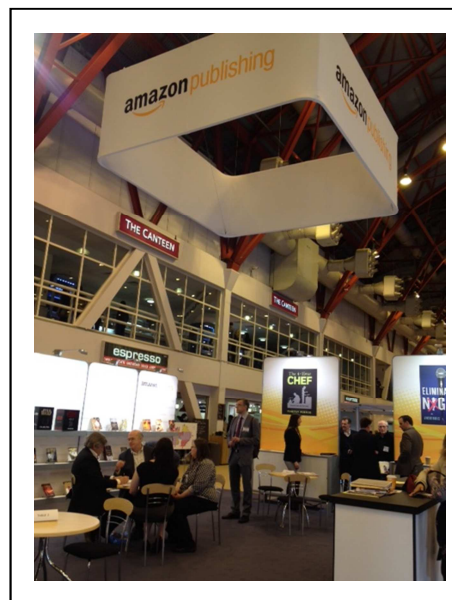
なお、今回のロンドンブックフェアにおける最大の話題は上記 Nook の UK 上陸と、もうひとつはブックフェア直前に米司法省が電子書籍の価格談合の疑いでアップルと大手出版社 5 社を提訴したことにより、今後も電子書籍のエージェンシー・モデルが維持できるのかという新たに持ち上がった（今後の出版業界を揺るがしかねない）懸念だった。この提訴は、アップルと米大手出版社 5 社が談合し、価格を不当に吊り上げたことが理由らしい。今回提訴された出版社はアシェット、マクミラン、ハーパーコリンズ、ペンギン、サイモン&シュースターの 5 社。ただしアシェット、ハーパーコリンズ、サイモン&シュースターの 3 社はすでに司法省との和解を成立させている。これに対し、マクミランは談合の疑いを否定。「和解を成立させてしまえば、またアマゾンに独占を許すことになり、それが出版業に携わる者にとっては非常に深刻な影響を長い期間にわたって与えるだろう」とコメント。なお、ペンギンも司法省との和解を拒否し、法廷で争う準備をしているという。この問題はもともと 2010 年にアップルが「iPad」を売り出す際、電子書籍の流通に関し、「エージェンシー・モデル」という新たな方法を出版社側に提案したことに端を発している。それまでアマゾン（Amazon）のような小売業者は「ホールセール・モデル」を採用していたが、この仕組みでは小売業者側が自由に価格を設定することが可能だった。これ

に対し、「エージェンシー・モデル」では、電子書籍の価格を出版社側が決定することができ、アップルなどの小売業者側は販売額の30%を手数料として受け取る。

Amazon Crossing とミーティングを行う。
世界の文学を英訳して紙&Kindle 版を発行する Amazon Crossing は Amazon Publishing のインプリントの一つ。昨年は40タイトルを発刊、今年はそれを上回るペースで進んでいるとのこと。トランネットのJWH作品の一つが今年10月に Amazon Crossing から出版予定（日本初）。担当編集者からは具体的な表紙デザイン案まで出てきた。



Amazon Publishing の発行責任者 Laurence Kirshbaum 氏。元タイムワナーブックスでビル・ゲイツやジャック・ウェルチ等、超大物と仕事をしてきた氏は、米国出版界を代表する最も著名な出版人の一人。しかしアマゾンに移籍したことにより、中には「裏切者」呼ばわりする出版人も。



フェア初日終了後、Amazon Publishing のパーティーに参加。世界中のエージェントが Amazon Crossing からの出版を目指してアプローチしている。知り合いのトルコのエージェントから聞いた話によると、Amazon はリアル書店を今年オープンするらしい。会場は大盛況。

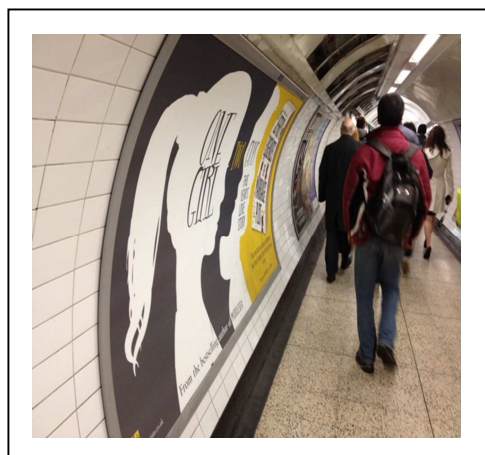


さて、Bowker Market Research が発表した主要先進国の電子書籍の状況は、US、UK、オーストラリア、インドでは、インターネットを使う人の 20%以上が過去半年以内に電子書籍を買ったことがあることが判明。これに対して、フランスは 5%、日本は 8%にとどまっている。

また、動画を配信してオンラインでの電子書籍販売を促進する Open Road が昨今注目を集めており、今回、イタリアの最大手 Mondadori と業務提携したことで話題になっていた。もちろんこれまでも動画を使ってプロモーションを行う出版社は多数存在するが、Open Road は映画製作のプロたちが著者にフォーカスしてセンスの良い凝った作品を生み出しており、著者の魅力から書籍購入に誘導するという他の出版社がいまだ確立していない境地に達している。Open Road の電子書籍は Amazon.com、Apple iBook store、BarnesandNoble.com、Google/IndieBound、Kobo Books、OverDrive、Sony Reader Store でも販売される。



再販制でないイギリスではこのように書籍が大幅にディスカウントして売られています。
(WH Smith にて。)



Tube（地下鉄）構内では至る所で書籍やミュージカルの広告が目につきました。
(以上)

株式会社 トランネット

〒105-0012 東京都港区芝大門2-1-1 第2境野ビル7F（受付）

TEL：03-6809-2980 FAX：03-6809-2981

E-mail：info@trannet.co.jp URL：<http://www.trannet.co.jp/>

Copyright© 2012 TranNet KK All rights reserved

参考資料：PW Show Daily April 16-18 / The Book Seller Daily April 16-18、その他